

令和元年度決算に係る

定期監査

資料

決算審査

令和 2 年 5 月

生活環境部山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

## 目 次

1	前年度指図書事項に対する措置等	1頁
	(1) 指図書事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指図書事項に対する処理状況	1頁
3	職員の定員、現員調べ	1頁
4	役付職員の調べ	1頁
5	主な事業に関する調べ	2頁
6	決算調書（総括表）	10頁
7	事業別実態状況調べ	10頁
8	予備費の充用調べ	10頁
9	繰越期滞調べ	10頁
	(1) 継続費滞欠繰越調べ	
	(2) 繰越期滞費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
10	収入証明取扱い調べ	10頁
11	現金の取扱い状況	10頁
12	財産に関する調べ	11頁
13	財産の貸付及び使用許可調べ	13頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの）	
14	借受不動産取得調べ	13頁
15	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	13頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
16	寄附物件の受納状況調べ	13頁
17	備品の処分状況調べ	13頁
18	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	13頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
19	貸付金等状況調べ	14頁
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
20	山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館運営	14頁
	(1) 管理運営	
	(2) 常設展示月別入館者数	
	(3) 事業内容	
21	山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館資料保有状況	21頁
○	意見、要望等	21頁

1 前年度指摘事項に対する措置等

(1) 指摘事項

指 摘 事 項	措 置 状 況 等
なし	

(2) 監査意見

該当なし

(3) 決算審査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和2年5月1日現在)

種 別 区 分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備 考
	当該 年度	31.4.1 現 在	当該 年度	31.4.1 現 在	当該 年度	31.4.1 現 在	当該 年度	31.4.1 現 在	
定 員	4	4	3	3			7	7	技術職員＝総括専門員、学芸員、学芸員補
現 員	(1) 4	(1) 4	( ) 3	( ) 3	( )	( )	(1) 7	(1) 7	派遣先＝山陰海岸ジオパーク推進協議会
過不足(△)									
臨時職員									
会計年度任用職員	4	4	2	2			6	6	専門員2、外国人観光客誘致事業推進員1、3D看視員2、事務職員1

4 役付職員の調べ

(令和2年5月1日現在)

職 名	氏 名	在 職 期 間		備 考
山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館館長	近藤 一彦	1年	1月	
課長補佐	西村 拓也	1年	1月	出納員
総括専門員兼副館長	安藤 和也		1月	

## 5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
山陰海岸ジオパークユネスコ世界ジオパーク創生事業費	59,403	0	6	59,397
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	<p>1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる</p> <p>(1) 観光・交流</p> <p>①多様な観光資源を活かした戦略的観光立県</p> <p>③広域連携による観光誘客の推進</p>			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>ユネスコ世界ジオパーク『山陰海岸ジオパーク』の魅力発信を通じて、ジオパークの認知度向上及び国内外からの誘客促進を図る。</p> <p>また、平成29年度の日本ジオパーク再認定審査における指摘事項および平成30年度のユネスコ世界ジオパーク再認定審査における指摘事項に適切に対応し、山陰海岸ジオパークの中核拠点施設としての役割を果たす。</p>				
<p>■平成29年度の日本ジオパーク再認定審査における指摘事項</p> <p>《1年以内に解決すべき課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局職員が2年任期。マクロで統括する能力が不足。将来的方向性を定めるために事務局、構成自治体間の情報共有や議論を行うことが必要。</li> <li>・地域の盛り上げりを全体の盛り上げに発展させるための実効性のある運営体制の構築に向けた方向性を示すことが必要。</li> <li>・ジオパークの統一性を確保するための実践力のある組織体制の構築に向けた方向性を示すこと。</li> <li>・事務局と関係者がジオパークに対する認識を共有するためにコミュニケーションを強化すること。</li> </ul> <p>《2年以内に解決すべき課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオガイドの資質向上とガイド団体と他団体との連携を強化すること。</li> <li>・ジオツーリズムを推進するための導線づくりに取り組むこと。</li> <li>・新温泉町山陰海岸ジオパーク館(中核拠点施設)の情報収集発信機能を強化すること。</li> </ul>				
<p>■平成30年度のユネスコ世界ジオパーク再認定審査における提案事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山陰海岸ジオパークは、世界ジオパークネットワーク(GGN)の活動に積極的に参加しているが、他の世界ジオパークと更に姉妹提携を締結するなど、連携を一層強化すること。</li> <li>・他の世界ジオパークとのパートナーシップに基づき、ジオパークの国際的な価値を高めるために、世界ジオパークネットワークやアジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)の活動に積極的に参画すること。</li> <li>・余部鉄橋の新しいビューポイント(空の駅)は、鉄道に関する地域の歴史や地形地質との関係などがわかる解説パネルやリーフレットを整備すること。</li> <li>・地元産品と地質、地域の歴史、文化、自然との関わりを探求するために、地域で活動する人々との協働を更に進めること。</li> <li>・玄武洞は、地球の磁極逆転の結果に関する科学的知見を知らせる場所であるため、磁場の役割について訪問者へていねいな情報提供をすること。</li> <li>・パンフレットや冊子の形で、英語や中国語による解説を増やして欲しい。おそらく、中国語の公式ウェブサイトは、中国人旅行者にとって有益である。</li> <li>・砂丘における過去の気候および気候変動の解明に関係することについて、より多くの調査研究がなされるべきである。</li> <li>・ジオパークエリア内の景観地域間のつながりを分かりやすくするために、景観地域の位置や交通手段を示すパンフレットを用意すること。</li> </ul>				

・山陰海岸ジオパークと公式協定によるパートナーになるための必要な基準を策定すること。

## (イ) 事業の実施状況

### 1 再認定への取組

#### (1) 中核拠点施設としての機能強化

来館者の受入体制を強化するため、当館の裏庭に山陰海岸の岩石を展示・学習できる庭園を整備し、山陰海岸ジオパークエリア内の中核拠点施設としての機能向上を図った。

### 2 ツーリズムの推進

#### (1) 山陰海岸ジオパークトレイル

山陰海岸ジオパークトレイル協議会（事務局：鳥取市観光コンベンション協会）において、マップ作成や道標等の整備など受入れ態勢の整備、イベント開催や案内・問合せの対応など啓発・情報発信、ツアー造成やルート延長などを行い、山陰海岸ジオパークエリア内の全ルートを認定した。

##### ○トレイルルートの延長

H29年度末 鳥取駅～香美町（しおかぜ香苑）（約91km）

⇒ H30年度末 青谷駅～香美町（佐津駅）（約144km）

⇒令和元年度末 香美町（佐津駅）～京丹後市（経ヶ岬）（約230km）

##### ○山陰海岸ジオパークの魅力が体感できるトレイルイベント等の開催

イベント：開催回数 4回、参加者数 延べ71人

ガイド研修：開催回数 1回、参加人数 延べ13人

#### (2) GEO×アクティビティプロジェクト（山陰海岸ジオパーク推進協議会事業）

山陰海岸ジオパーク浦富海岸の海のアクティビティガイド（シーカヤック、SUP等）の資質向上および体験プログラムの充実を図るため、ガイドを対象に現地の地形・地質・生物についての講座を実施するとともに、アクティビティ事業者や鳥取大学の専門家等と連携して多角的な視点を取り入れた実践的なガイドテキストを協働し作成した。

##### ○ガイドテキスト作成のための現地調査

浦富海岸をボートで回り、ガイドが説明するポイントを学術的観点から調査した。調査後にテキストに盛り込む内容を協議した。

実施日：H31年4月18日（土）

調査メンバー：Develop Surf & Sea（アクティビティ事業者）山下代表、鳥取大学 小玉教授（地質学）・菅森講師（地質学）、兵庫県立大学 佐野助教（地質学）、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館 太田学芸員（生物学）・金山学芸員補（地質学）

##### ○ガイドテキストの作成

執筆：山陰海岸ジオパーク推進協議会 郡山専門員、海と大地の自然館 太田学芸員、金山学芸員補

編集：山陰海岸ジオパーク推進協議会

##### ○ガイド対象講座の開催

講師：山陰海岸ジオパーク推進協議会 郡山専門員、海と大地の自然館 太田学芸員、金山学芸員補

第1回 R1年6月29日（金）参加者数：20名（悪海況のため座学のみ）

第2回 R1年9月30日（月）参加者数：14名（座学・現地講座）

### 3 研究・教育活動の推進

#### (1) 体験学習等の開催

##### ① ジョキッズ・サマースクール

小学生を対象に、ジオパークに関する教育体験プログラムを提供した。（H27年度から実施）

開催日 令和元年7月29～30日、8月5～6月（1泊2日を2回）

内容 浦富海岸遊覧船、鳥取大学で砂の実験、夜の砂丘で昆虫観察、磯の生物観察会

参加人数 40名（7月：23名、8月：17名）

②科学実験教室

工作や実験、体験を通じて、山陰海岸ジオパークをよく知り、親しみや関心を持っていただくことを目的に実施した。

開催日 令和元年6月30日(日) 正午から午後4時

場所 公立鳥取環境大学 学生センター・情報メディアセンターギャラリーホール・中庭

参加人数 約850人(主に幼稚園・小学生以下の親子)

協力団体 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館、アトリエTUES、公立鳥取環境大学、  
鳥取西高等学校、鳥取東高等学校、岩美高等学校、八頭高等学校

内 容

No.	分類	コーナー・テーマ名	担当
1	体験	乗れるカニさんロボット	公立鳥取環境大学
2	工作	皮で作るオオサンショウウオ	
3	体験	コンテナガーデンを作ろう	
4	体験	ミニ砂像制作	
5	体験	染め物体験	
6	工作	砂は生きている～鳥取砂丘の砂について解説と砂時計づくり～	
7	体験	YOU食べちゃいなよ!～食べられる土についての解説と試食～	
8	体験	巨大風船!空からお菓子がふってくる!?	
9	実験工作	ペットボトルキャッチャーをつくろう!	
10	体験	チリメンモンスター	
11	工作	貝殻写真立て作り	
12	体験	環境教育ゲーム「ジオ道!～山陰海岸ジオパークをゆく～(改)」	
13	工作	環境アートで感じる鳥取!	
14	体験	ジオ神経衰弱!	
15	展示体験	TUE Zoo ～mini～	
16	体験	貝の名は ～貝殻の名前を調べよう～	
17	工作	イナバのワニ凧	
18	工作	光る誕生月星座	
19	展示	ジオパーク記念写真	
20	体験	ジオねんど体験	アトリエTUES
21	体験	サザエの解剖	岩美高等学校
22	体験	ジオカルタ	八頭高等学校
23	体験	砂(古砂丘・鳴り砂)の研究	鳥取東高等学校
24	実験	コーラdeマグマ	鳥取西高等学校
25	工作	弁当パックで地形立体模型を作ろう!	海と大地の自然館
26	体験	モールス体験	

③サイエンスカフェ

地域住民が地球科学や人文地理学の基礎を学ぶことにより、山陰海岸ジオパークの郷土の自然・文化に関心を持ち、理解し、活用していくための知的土台を築くことを目的に実施した。

区分	開催日	場所	テーマ (講師)	概要	参加人数
第1回	R1. 6. 22	公立鳥取環境大学まちなかキャンパス	「“地球の気持ち”に寄り添った社会とは？」 (鳥取環境大学 准教授・楳岡 一央 氏)	日本国内や海外のユニークな地形や地層の紹介やそれらの成り立ちについての解説。3D眼鏡を使ってポルトガルや日本の海底地形を立体視し、地殻変動の痕跡を確認し、グループに分かれてディスカッション等も行った。	11人
第2回	R1. 7. 6	公立鳥取環境大学まちなかキャンパス	「宇宙探査の最新動向」 (鳥取大学大学院工学研究科 教授 西田 信一郎 氏)	講師が関わったJAXA「はやぶさ機」の小惑星探査ミッションの経緯談や、現在の宇宙ロボット開発や宇宙探査の最新動向の紹介があった。 参加者の積極的な質問もあり、学びを深めることができた。将来、宇宙飛行士や宇宙関連の職業に就きたいと考えている小中学生もおり、真剣にノートをとる姿や集中して解説に耳を傾ける姿が見られた。	24人
第3回	R1. 10. 27	公立鳥取環境大学岩美むらなかキャンパス	「岩美鉱山を探検しよう！ ～歴史も学ぶ 環境も学ぶ～ (鳥取環境大学 講師・門木 秀幸 氏)	岩美鉱山の隆盛期から閉山するまでの歴史を学び、坑廃水による環境汚染の問題や、現在も坑廃水処理が必要となっている現状を学んだ。また、現地へ移動し、実際に坑道内を見学したり、坑廃水を中和して有機物を除去する実験などを見学し、理解を深めた。 ジオパークの新たな一面を知る機会となった。	16人
第4回	R1. 12. 7	公立鳥取環境大学岩美むらなかキャンパス	チリメンモンスター教室～魚の赤ちゃん、命をかけた大冒険！！～ (公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター・太田 特命准教授)	魚の体について基本的な知識を学び、大型のカタクチイワシの煮干しの解剖を行って、魚の各器官について理解を深めた。 後半は、多種多様な稚魚が混在するチリメンモンスターを観察し、資料や図鑑と見比べながら、様々な生き物を探した。身近な海に生息する生物やその生態について理解を深めた。	24人
計					75人

## (2) 調査・研究委託事業

山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の学芸員と鳥取大学等の研究者が共同で、山陰海岸ジオパークの大地の成り立ちや生物相を調査・研究し、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの学術的価値の向上を図るとともに、地域の新たな魅力を発掘し、その成果を盛り込んだ講演会やパンフレットを作成することなどにより、更なる住民学習や誘客につなげる取組をした。

### ＜研究成果＞

①分野	地 質	生 物
②研究課題	山陰海岸ジオパークの大地の成り立ちを解明する	1. 山陰海岸ジオパークエリアにおける生物相調査(棘皮動物・ウミウシ・ホヤ) 2. 山陰海岸沿岸に漂着する生物の調査 3. 甲殻類の調査
③調査内容	・駒鳴山、青谷等の岩石学が記載 年代別定 ・駒鳴山の地質調査	1. 平成30年度に引き続き、ヒトデやナマコなどの棘皮動物の標本調査、巻き貝の仲間のウミウシ相の野外調査と、新たにホヤ相の野外調査を行った。 2. 漂着する生物では、不定期的に漂着があった際の収集・調査を行った。 3. 甲殻類では、自然館や職員保管の標本等から形態の記載や生態解明に関する研究を行った。

④主な成果	<p>・駒形山の地質は火砕流を伴う爆発的な噴火で堆積した地層にマグマが貫入してできたことが分かった。</p>	<p>1. 標本調査の結果、棘皮動物は100種近くとなった。ウミウシ類では昨年度に引き続き、春季に野外調査を行い、最終的に120種以上が見つかった。ホヤ類では採50種が見つかった。ホヤ類では日本海初記録が確認された。</p> <p>2. 主にリュウグウノツカイや、ウミガメ類などの大型海洋生物が漂着した。昨年度に漂着したジンベエザメと、その共生生物の漂着記録の論文を出版した。</p> <p>3. 小型甲殻類の解剖観察などによって形態の記載と繁殖行動に関する論文を出版した。また、エビ類に寄生するダンゴムシ状の甲殻類の生活史に関する論文を出版した。</p>
⑤効果の活用	<p>・来年度以降、岩美町で活動するガイド、アクティビティ業者等が新発見を活用できるよう、情報を整理し、講座等で周知を行う。</p>	<p>・学会で発表したポスターを展示中。水槽での生体展示を行った。ウミガメ類の甲羅に特異的に付着するフジツボの常設展示を行っている。</p> <p>・研究内容をジオパーク関係の大会で紹介し、他のジオパークの生物系専門員とコネクションの構築を行った。</p>
⑥研究メンバー	<p>海と大地の自然館 金山恭子 学芸員補 鳥取大学地域学部 小玉芳敬 教授 鳥取大学地域学部 菅森義晃 講師</p>	<p>海と大地の自然館 太田悠造 学芸員 東京大学臨海実験所 幸家久典 技術職員 和歌山県自然博 山名裕介 学芸員 全日本ウミウシ連絡協議会 中野理枝 会長 筑波大学 戸川優弥子 博士課程大学院生 国立科学博物館 西川輝昭 名誉研究員 北海道大学 長谷川尚弘 修士課程大学院生</p>

<住民への研究成果の還元>

○「山陰海岸ジオパークみんなでおしゃべり2」を開催

日時 : R1年12月19日(日) 9時45分から16時

場所 : 鳥取大学 コミュニティーデザインラボ

参加者 : 63名(ガイドなど住民、観光関係者、行政職員、大学生、大学教員等)

ファシリテーター : 大岩根尚氏(合同会社むすびパートナーCEO)

内容 :

①山陰海岸ジオパークの研究発表、CEO×アクティビティプロジェクトの報告

千代川護岸崩壊の一要因、駒形山のでき方、浦富海岸の生物たち、浦富海岸の花崗岩類の新発見滝ヶ磯の地質 等

②選ばれるジオガイドとお客づくり

講師: 西谷 香奈氏(株式会社グローバルスポーツクラブ代表取締役)

③地元を巻き込んだ外国人にウケルローカルツアー

講師: 工忠 照幸氏(旅行会社MATA TABI代表、里山ゲストハウス クチュール代表)

④みんなでおしゃべりタイム

質疑応答及び参加者間で意見交換を行った。

○白兎海岸の調査研究をまとめたパンフレットの作成

H30年度までの白兎海岸における地形・地質分野の調査研究をまとめたパンフレットを作成した。

4 国内外への情報発信

(1) 香港ユネスコ世界ジオパークとの中・高校生交流

米子香港便を活用して、香港ユネスコ世界ジオパークについて学んでいる香港の中・高校生が来県し、山陰海岸ジオパーク(ユネスコ世界ジオパーク)について学んでいる地元高校生と交流を行った。

訪問団: 馮堯敬紀念中學(フォン イャオ ジン記念中学)

生徒27名(13歳~17歳)、引率教員5名、香港ジオパーク職員1名 合計33名

※当該学校は中高一貫校で複数の学年で構成。

H31.4.6 米子空港着(鳥取市内宿泊)

H31.4.7 鳥取敬愛高等学校の生徒と交流

鳥取砂丘ビジターセンター視察・鳥取砂丘散策・山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館視察

※4.8以降は、訪問団のみで視察を行った。

H31.4.8 山陰海岸ジオパーク視察(鳥取大学乾燥地研究センターほか)



H31. 4. 9～10 隠岐ユネスコ世界ジオパーク視察

H31. 4. 11 大阪観光

H31. 4. 12 香港へ

- (2) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク及び島根半島・宍道湖中海ジオパークとの合同研修会（山陰海岸ジオパーク推進協議会事業）  
超高速船「レインボージェット」の鳥取港-隠岐試験運航（H31. 4. 12）を利用して、山陰海岸、隠岐、島根半島・宍道湖中海の3つのジオパークが合同で研修を実施した。（来年度以降、3ジオパーク持ち回りで合同研修を実施する。来年度は島根半島・宍道湖中海ジオパークで実施予定。）

日時：H31年4月12日（金）から14日（日）

場所：島根県隠岐の島町、西ノ島町（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）

参加者：隠岐、島根半島・宍道湖中海、山陰海岸ジオパークのガイド・行政担当者38名

内容：①ガイドスキル等についてのワークショップ、座学

②選択制現地研修（ジオサイト視察、シーカヤック体験、ロングトレイル体験）

- (3) ユネスコ世界ジオパーク道府県連合の取組

R2. 2. 4 『Radio Expo 2020』のパブリシティの一環として、全国放送のラジオ番組で、山陰海岸ジオパークの紹介を行った。

R2. 2. 10～11 ユネスコ世界ジオパーク道府県連合（世話人：平井知事）の代表として山陰海岸ジオパークが、麒麟のまち観光局と連携して横浜市中区で開催されたRadio Expo 2020に参加し、ポスター掲示、チラシ配布、ジオパーク体験（砂丘の砂絵づくり）等を行い、ユネスコ世界ジオパーク及び日本遺産を紹介し、認知度向上を図った。

## 5 民間活力の振興

### (1) 山陰海岸ジオパーク魅力活用総合補助金

山陰海岸ジオパークにおいて、産業の振興、ジオツーリズムの振興、受入れ態勢の向上、普及・啓発の推進等につながる事業を行おうとする者に対し必要な経費を支援し、山陰海岸ジオパークの取り組みの推進を図った。

区分	件数	主な事業内容
ジオツーリズムの振興につながる事業	4件	・山陰海岸海中のフォトコンテスト開催 ・らっきょうの花畑を含む鳥取砂丘周辺のウォーキング大会
受入れ態勢の向上につながる事業	10件	・千貫松島の松くい虫防除 ・ガイドのスキルアップのための研修
普及・啓発の推進につながる事業	8件	・ジオパークをテーマとした研修会や講演会等 ・山陰海岸ジオパークでの校外学習に係るバス代支援

## 6 国際化対応

### (1) 外国人対応ガイド職員の配置

山陰海岸ジオパークの拠点施設である山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館と砂丘事務所に、外国人観光客への対応を図るため、英語が堪能な職員を各1人配置した。

※砂丘事務所の職員は、H30. 10. 26 から鳥取砂丘ビジターセンターへ移管。

### (2) テレビ電話通訳サービスの運用

山陰海岸ジオパークにおける外国人対応の充実を図るため、タブレットを活用した英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語等の通訳サービスをジオパークの拠点施設に導入し、外国人からの問い合わせに対応するとともに、必要に応じて、ガイドに貸し出しを行い、外国人の個人及びツアー客に対応した。

## イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

○平成30年度に設置したデジタルサイネージを運用し、来館者の利便性を図るとともに山陰海岸ジオパークの中核拠点施設として情報発信した。

○来館者の受入体制を強化するため、当館の裏庭に山陰海岸の岩石を展示・学習できる庭園を整備し、山陰海岸ジオパークエリア内の中核拠点施設としての機能向上を図った。

ウ 成果及び効果

○目標に対する達成状況

山陰海岸ジオパークエリアにおけるアクティビティ参加者の人数について、インストラクターの資格取得や岩美町立渚交流館の更衣研修棟の増築、隣接する吉田川へのスロープ設置、体験できるアクティビティの種類増など受入体制が整えられ、また天候にも恵まれ、令和元年度は6,000人を超えた。

(単位：人)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	摘要
アクティビティ(自然体験活動)年間参加者数	2,525	4,015	4,123	4,044	5,610	6,339	KPI指標 目標5,000人 (H31年度)
岩美ジオフィールド※ 来場者数	38,576	37,355	38,729	35,608	42,305	43,410	

※山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館と岩美町立渚交流館のエリア一帯の名称

- サイエンスカフェや科学実験教室などの実施により、900名を超える参加者に山陰海岸ジオパークについて紹介し、体験していただくことができた。科学実験教室では、昨年よりも多くの高校生ブースがあり、科学部や理数科の研究成果を子どもたちや一般の参加者へ発表するよい機会となった。また、参加者からも、夏休みの自由研究でやってみたいとか、工作などは作ってみたいといった声があった。  
ジオパークについても、いろいろな取り組みを行っていることがわかったという声もいただいた。サイエンスカフェも研究者や各分野の専門家の話が聞けるということで、関心の高い方が集まっており、終了後も質問する光景も見られた。また、話を聞くだけでなく、現地見学や体験などもできて好評だった。
- 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の学芸員と鳥取大学等他機関の学術関係者等が連携して調査研究事業を実施し、調査内容や成果を報告会等で発表するとともに、浦富海岸のアクティビティ事業者向けテキストや研修会で活用するなどジオパークの学術的知見の普及啓発を推進した。
- 平成29年度に実施された日本ジオパーク再認定審査で条件付き再認定(イエローカード)を受けたが、山陰海岸ジオパーク推進協議会を中心に関係する団体が連携し、ジオパークに係る取組を進めた結果、平成30年度の世界審査で再認定(グリーンカード)となるとともに、世界審査での再認定を受け、平成29年度に受けたイエローカードを解除とすることが平成31年4月に公表された。

エ 課題

- 平成29年度のイエローカードが解除されたものの、引き続き、山陰海岸ジオパークエリア内の連携、山陰海岸ジオパーク推進協議会の事務局体制(会長代行の配置)など指摘された課題に対応していく必要がある。なお、平成30年4月には短期的な人事異動の影響を受けない兵庫県OBが事務局長に就任した。
- 平成30年度に実施されたユネスコ世界ジオパークの再認定審査では再認定となった。ユネスコ世界ジオパーク委員会報告書にある提案事項について、内容を精査し、山陰海岸ジオパーク推進協議会、構成府県市町と連携を図りながら取組を進める必要がある。
- 山陰海岸ジオパークトレイルの全ルートが認定されたが、認定されたルートが活用されるよう取り組む必要がある。

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館事業費	6,154			6,154
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	—			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
ユネスコ世界ジオパークに認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設として、その魅力を多くの人に伝えるため、資料展示の充実や教育普及活動、自然観察会等を推進する。				
(イ) 事業の実施状況				
○資料展示等の充実				
伏角方位計を利用し、地磁気の逆転についての解説をより分かりやすいものになるように工夫した。また、地質年代のチバニアンやSDGsについてのパネルやキャプションを追加した。				
水槽の生物も、その季節に生息する生き物を捕獲するなどして、変化のある展示に努めた。				
○専門員等の派遣				
学校や公民館等からの依頼に応じて専門員等を派遣し、ジオパークに関する講演や学習会等を開催した。(詳細は26頁参照)				
○自然観察会等の開催				
山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館主催で、自然観察会等を年間23講座開催し、691名が参加した。(詳細は28頁参照)				
イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
○ネコザメやアオウミガメなど、適宜、情報発信や体験学習の場を設けた。				
○休憩コーナーでのジオパーク資料の充実と書籍の配架など、スペースの有効利用に努めた。				
○ジオパークについて広く知っていただくため、クリスマスレクチャー(わかとり科学技術育成会主催)へ参加し、体験ブース展示を行った。				
ウ 成果及び効果				
山陰海岸ジオパークを学ぶ機会を提供し、ジオパークの認知度向上及び普及啓発を行った。				
○山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館入館者数				
平成27年度 19,957人(山陰海岸学習館)				
平成28年度 23,875人				
平成29年度 23,170人				
平成30年度 27,556人				
令和元年度 27,961人				
○3D映像視聴者数				
平成28年度 11,590人				
平成29年度 11,964人				
平成30年度 12,530人				
令和元年度 11,516人				
○学校・公民館などへの専門員等派遣回数と対象人数				
平成28年度 37回 1,443人				
平成29年度 47回 1,995人				
平成30年度 52回 2,706人				

令和元年度 40回 1,710人

○自然観察会等の参加者数（主催事業）

平成28年度 12講座 270人

平成29年度 13講座 348人

平成30年度 18講座 366人

令和元年度 27講座 691人

#### 工 課 題

- 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館へのリピーターを増やすための工夫、入館者数が減少する冬期間への対応がさらに必要である。
- 常設展示のみであるため、来館者が楽しめる工夫や、学芸員等の調査研究の内容を分かりやすく情報発信することが求められる。
- 自然講座や野外観察会を昨年度よりも多く実施したため、山陰海岸ジオパークの認知度向上に資することができた。また、全体の参加者数も増加したが、秋から冬にかけての講座は定員に満たないものが多く、日程調整や広報の工夫が必要である。

#### 6 決算審査

別途提出

#### 7 事業別実施状況調べ

別途提出

#### 8 予備費の充用調べ

別途提出

#### 9 繰越関係調べ

別途提出

#### 10 収入証紙取扱額調べ

有 ・ 無

#### 11 現金の取扱状況

該当なし

12 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土地

(令和2年3月31日現在)

行政・普通 財産の 区分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				差引		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動 理由	面積 (㎡)	価額 (円)	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政 財産	(内訳) 山陰海岸ジオパーク海と大地の自 然館	岩美郡岩美町 牧谷1794-4	2290.61	5,725,800	増加 H			2290.61	5,725,800		
計			2290.61	5,725,800	減少 H			2290.61	5,725,800		
合計			2290.61	5,725,800				2290.61	5,725,800		

イ 建物

行政・普通 財産の 区分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				差引		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動 理由	面積 (㎡)	価額 (円)	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政 財産	(内訳) 山陰海岸ジオパーク海と大地の自 然館	岩美郡岩美町 牧谷1794-4	710.81	142,545,300	増加 H			710.81	142,545,300		
計			710.81	142,545,300	減少 H			710.81	142,545,300		
合計			710.81	142,545,300				710.81	142,545,300		

- ウ 山林 該当なし
- エ 不動産売却等 該当なし
- オ 財産の交換 該当なし
- カ 動産 (船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機) 該当なし
- キ 物権 該当なし
- ク 無体財産権 (特許権、著作権、商標権、実用新案権等) 該当なし

ケ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況

(令和2年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本年度中		差引
	購入枚数	使用枚数及び金額	
20枚	0枚	1枚 1,280円	19枚

(3) 基金 該当なし

(4) 債権

(令和2年3月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				差引		備考
	金額	件数	増		減		金額	件数	
			金額	件数	金額	件数			
自動販売機設置に係る行政財産使用料	円 29,820	1	円		円 9,960	1	円 19,920	1	
合計	29,820	1			9,960	1	19,920	1	

13 財産の貸付及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地 該当なし

イ 建物 該当なし

(2) 物品 (1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの) 該当なし

14 借受不動産詳細調べ 該当なし

15 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (m)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	岩美郡岩美町牧谷1794-4	11	1,000

(2) 減免の考え方(減免を行った場合のみ) 該当なし

(3) 使用料の見直し

令和元年9月27日実施

16 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

17 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不用 決定 年月日	処 分				備 考
			売払 棄却 の別	売払方法・ 棄却理由	処 分 年月日	売払額・ 処分費用	
冷凍資材保管庫	H18.3.29	R2.1.29	棄却	経年劣化による故障	R2.1.29	円	
プレハブ建物	H18.3.29	R2.1.29	棄却	経年劣化による破損	R2.1.29		
合 計							

18 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

有 ・  無

(2) 物品の照合

有 ・ 無

19 貸付金等状況調べ

(1) 総括表 該当なし

(2) 償還状況 該当なし

20 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館運営

(1) 管理運営

入館料 無料

開館時間 午前9時から午後5時まで

ただし、7月1日から8月31日までの間の土曜日にあつては、午前9時から午後6時まで

休館日 月曜日（その日が休日である場合は、その翌日（その日が休日でない場合に限る。））

ただし、7月20日から8月31日までの間における月曜日（その日が休日である場合は、その翌日を含む。）開館するものとする。

祝日法に規定する国民の祝日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日でない場合に限る。）

12月29日から翌年の1月3日までの日

(2) 常設展示月別入館者数

(単位：人)

月別	開館日数	小学生以下	中学・高校・学生	一般	合計	1日当たりの入館者数
4月	24	514	283	1689	2486	103
5月	27	741	251	2722	3714	137
6月	26	642	191	1797	2630	101
7月	28	1339	233	2223	3795	135
8月	31	1258	264	3021	4543	146
9月	25	500	116	1544	2160	86
10月	26	516	54	1189	1759	67
11月	26	335	33	1107	1475	56
12月	24	128	12	666	806	33
1月	24	218	14	768	1000	41
2月	25					
3月	26					
合計	312					

(3) 事業内容

ア 常設展示

(単位：点)

区分	実物資料・標本	ジオラマ・模型・機器	計
地学	75	15	90
海洋生物	238	0	238
陸上生物	153	0	153
その他	0	26	26
合計	466	41	507

(注) 部門別に展示点数を記入し、表の下に展示概要を記入すること。



イ 水槽展示生物

区分				
魚類	貝類	甲殻類	棘皮類	その他
軟骨魚類	二枚貝類	カニ類	ウニ類	アオウミガメ (爬虫類;一時保護)
ドチザメ	ムラサキイガイ	アカイソガニ	アカウニ	
ネコザメ		アケウス	タコノマクラ	アカネイソギンチャク
	巻貝類	イソガニ	ニッポンコシダカウニ	イソギンチャクの一 種(ヤドカリの貝殻 などに共生)
硬骨魚類	カコボラ	キンセンガニ	バフンウニ	
アイゴ	コナガニシ	サナダミズヒキガニ	ヒラタブンブク	
アオハタ	サザエ	ツノガニ	ボウズウニ	シロボヤ
アナハゼ	シドロガイ	ハリセンボン(カニ)	ムラサキウニ	ベニボヤ
アミメハギ	ナンカイボラ	ヒシガニ	ヤマタカタコノマクラ	
イシガレイ	ヨウラクガイ	ミズヒキガニ		
イシダイ		ミツカドヒシガニ	ヒトデ類	
イトフエフキ	頭足類(イカ・タコ)	メガネカラッパ	イトマキヒトデ	
ウマツラハギ	マダコ	ニホンカイカムリ	ウデナガゴカクヒトデ	
ウミタナゴ			トゲモミジガイ	
オニオコゼ	ウミウシ類	エビ類	ヌノメイトマキヒトデ	
オハグロベラ	アオウミウシ	イソスジエビ	ハダカモミジ	
オヤビッチャ	アメフラシ	オトヒメエビ	マヒトデ	
カエルアンコウ	ウミフクロウ	コシマガリモエビ		
カゴカキダイ	クロヘリアメフラシ	フタバヒメセミアエビ	クモヒトデ類	
カサゴ	ハナデンシャ		トウメクモヒトデ	
カワハギ	ミドリアメフラシ	ヤドカリ類	ニホンクモヒトデ	
カンパチ	ムカデメリベ	イガグリホンヤドカリ		
キジハタ		ケアシホンヤドカリ	ウミシダ類	
キヌカジカ		ケブカヒメヨコバサミ	シモフリウミシダ	
キヌバリ		セルブラヤドカリ	ニシキウミシダ	
キュウセン		ベニホンヤドカリ		
クサフグ		メダマホンヤドカリ	ナマコ類	
クジメ		ヤマトホンヤドカリ	ゴカクキンコ	
クロソイ		ヨコスジヤドカリ	マナマコ	
コブダイ			フジナマコ	
コブフウセンウオ		ワラジムシ類		
コモンフグ		フトクワウミクワガタ		
ゴンズイ				
シマイサキ				
ショウサイフグ				
シロザケ				
スズメダイ				
ソラスズメダイ				
タツノイトコ				
ダイナンギンポ				
ドロメ				
ナベカ				
ニジギンポ				
ネンブツダイ				
ハオコゼ				
ハナオコゼ				
ハナミノカザゴ				
ハリセンボン				
ヒガンフグ				
ヒシコバン				

ヒメジ				
ヒメタツ				
ヒラメ				
ブリ				
ヘビギンポ				
ベニツケギンポ				
ホウボウ				
ホシササノハベラ				
ホタテウミヘビ				
ホンソメワケベラ				
ホンベラ				
マアジ				
マダイ				
マフグ				
メジナ				
メバル類*				
計63種 (前年度62種)	計15種 (前年度23種)	計25種 (前年度19種)	計21種 (前年度17種)	計5種 (前年度5種)

計129種(前年度126種)

\*メバル類は3種類に分けられたが、外見の区別が難しいため、一種としている。

「〇〇の一種」と表記している生物は種の特定ができていないもの。

#### ウ 普及活動

##### (1) 学芸員・専門員派遣

内容	場所	期日	参加人数	備考
青谷高等学校授業 青谷学	青谷高等学校	4月17日(水)	62	
大岩・網代地区公民館 ジオパーク学習会下見	神鍋高原	4月19日(金)	3	
青翔開智中学フィールド ワーク	熊井浜	4月25日(木)	41	
鳥取市民大学 山陰海岸 ジオパーク講座	鳥取市文化センター	5月7日(火)	37	
岩美町教職員初任者研 修	城原海岸～鴨ヶ磯	5月23日(木)	3	
生涯学習センター ふるさと再発見生涯学習 講座「山陰海岸ジオパ ークの魅力にふれる！」下見	城原海岸～鴨ヶ磯	5月23日(木)	3	
大岩・網代地区公民館 ジオパーク学習会	神鍋高原	5月30日(木)	26	
シュノーケリングガイド養 成講座	渚交流館	6月1日(土)	4	
岩美中学校1年ジオパ ーク研修会	熊井浜・海と大地の自然 館	6月20日(木)	86	
青谷高校 青谷学	勝部・夏泊海岸	6月26日(水)	14	
鳥取市立大正小学校ジオ パーク体験学習	熊井浜	7月4日(木)	83	
鳥取大学附属小学校 海の学校・ジオ学習	城原海岸～鴨ヶ磯	7月4日(木)	70	

鳥取大学附属小学校 海の学校・ジオ学習	大谷海岸	7月5日(金)	70	
本庄中央児童館 海の学 校	熊井浜	7月13日(土)	44	
美和小学校5・6年生 ジオパーク体験学習	熊井浜	7月17日(水)	60	
若鳥丸体験航海	鳥取沖	7月28日(日)	30	
鳥取大学講義「地球科学 実験演習」	鳥取大学	7月31日(水)	66	
郡山市・鳥取市小学生交 流会	大谷海岸	8月1日(木)	69	
鳥取大学ジュニアドクター 科学基礎講座	鳥取大学	8月3日(土)	23	
智頭町久志谷児童館 一日体験学習	海と大地の自然館 鴨ヶ磯	8月20日(火)	16	
明治地区公民館 星めぐりツアー	安蔵森林公園 「こわらび荘」	8月31日(土)	32	
岩美北小学校総合学習	熊井浜	9月5日(木)	32	
津ノ井小学校校外学習	鳥取砂丘・浦富海岸 海と大地の自然館	9月19日(木)	51	
富桑小学校校外学習	城原海岸 鴨ヶ磯	10月8日(火)	23	
鳥取大学講師 「ジオパークと自然災害・ 防災」	鳥取大学	10月9日(水)	70	
鳥取東高等学校 鳥取学Ⅰ校外学習	海と大地の自然館	10月10日(木)	46	
鳥取大学講師 「ジオパークと自然災害・ 防災」	鳥取大学	10月16日(水)	70	
鳥取大学講師 「ジオパークと自然災害・ 防災」	鳥取大学	10月23日(水)	70	
郡家東小学校校外学習	鳥取砂丘・浦富海岸 海と大地の自然館	10月30日(日)	39	
ジオと神話でトレジャーハ ント・霊石山をまるごと楽し むジモティー&ビジターの 集い	霊石山	11月3日(日)	20	
青谷高等学校 職業人に学ぶ	青谷高等学校	11月22日(水)	87	
クリスマスレクチャー	公立鳥取環境大学	12月7日(土)	30	
鳥取大学講義 「地球科学」	鳥取大学	12月10日(火)	70	
山陰海岸ジオパークを 見る知る作る展	鳥取砂丘 ビジターセンター	1月12日(日)	30	

鳥取大学「ジオパーク・自然災害・防災」講師	鳥取大学	1月22日(水)	67	
鳥取大学「ジオパーク・自然災害・防災」講師	鳥取大学	1月29日(水)	68	
鳥取市観光大学	渚交流館 海と大地の自然館	1月31日(金)	33	
鳥取市ガイド養成講座	鳥取市役所	2月19日(水)	20	

(2) 自然講座・野外観察会

内容	場所	期日	参加人数	備考
弁当パックで地形立体模型を作ろう!	海と大地の自然館	4月28日(日)	25	
		5月4日(土)	21	
磯の生き物タッチング	海と大地の自然館	4月29日(月)	63	
		5月2日(日)	75	
DO! 折り紙 ～海の生き物を作ろう～	海と大地の自然館	4月30日(火)	32	
		5月3日(金)	50	
ジオパークの星空観望会(春)	海と大地の自然館	5月5日(日)	19	
ウミガメ放流会	牧谷海水浴場	6月2日(土)	146	
地面の下を調べよう!	渚交流館	6月9日(日)	15	
山陰海岸ジオハイキング 小沢見大崎城址コース	小沢見海岸周辺	6月23日(日)	19	
磯の観察会(城原海岸)	城原海岸	7月14日(日)	32	
先取り! 夏休み自由研究	海と大地の自然館・渚交流館	7月7日(日)	23	
磯の観察会(熊井浜)	熊井浜	7月20日(土)	22	
		7月28日(日)	30	
どうする! 夏休み自由研究	海と大地の自然館・渚交流館	7月27日(土)	18	
ジオパークの星空観望会(夏)	海と大地の自然館	8月4日(土)	14	
海岸の動物探偵になろう!	熊井浜	9月15日(日)	18	
山陰海岸ジオハイキング 浜村散策コース	鳥取市気高町浜村	9月29日(日)	14	
大谷海岸ストーンハンティング	大谷海岸、大岩交流センター	10月6日(日)	22	
レッツ パンニング? ～砂金採取の技術を体験しよう～	海と大地の自然館	10月4日(日)	3	
ジオパークの星空観望会(秋)	海と大地の自然館	10月26日(土)	4	

山陰海岸ジオハイキング 壺石山登山コース	壺石山	11月10日(日)	3	
山陰海岸ジオハイキング 布勢歴史コース	布勢周辺	11月24日(日)	10	
クリスマスの飾りを作ろう	海と大地の自然館	12月8日(日)	17	
部分日食を観察しよう	海と大地の自然館	12月26日(木)	9	
琥珀標本を作ろう!	海と大地の自然館	2月23日(日)	20	

## エ 調査研究活動

### (1) 調査

内 容	場 所	期 日	備 考
山陰海岸ジオパークエリアにおける海洋生物相調査(ウミウシ)	浦富海岸沖水深14~25m	4月8日~14日	
青谷沖の桁網調査で得られる無脊椎動物の調査	青谷沖水深50~120m	5月~9月に各1回	
山陰海岸ジオパークエリアにおける海洋生物相調査(ホヤ)	浦富海岸沿岸水深~25m	6月17日~23日	
漂着・混獲された大型海洋生物の記録	鳥取県沿岸	通年	
自然館・職員所有の甲殻類標本の調査	海と大地の自然館内	通年	
駟馳山・青谷町の地質調査・岩石試料の記載	駟馳山(鳥取市・岩美町)、青谷町(鳥取市)	通年	

### (2) 発表

内 容(タイトル)	発表者	大会名	場 所	発表形式	日付
鳥取県東部岩美町沿岸域におけるウミウシ相調査	太田悠造・田村沙織・山崎英治・戸川優弥子・中野理枝	日本貝類学会2019年大会	東京都 東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス	ポスター発表(番号P-12)発表は中野	5月18~19日
地域住民に地球活動を伝える際に大切なこと ~地球科学系ポスドクから学芸員(補)へ転職して4年間の気づき~	金山恭子	日本地球惑星科学連合2019大会	幕張メッセ	招待講演	5月26日
中国・四国地方の基盤的比抵抗構造調査(2018年度)	塩崎一郎・宇都智史・上嶋誠・畑岡寛・池添保雄・山本真二・野口竜也・古市大樹・村山佑樹・松下航平・村上英記・大志万直人・飯尾能久、安藤和也	日本地球惑星科学連合2019大会	幕張メッセ	口頭発表	5月27日

山陰海岸ジオパークエリアにおけるウミウシ相調査	太田悠造・田村沙織・山崎英治・戸川優弥子・中野理枝	日本動物分類学会第55回大会	神奈川県立生命の星・地球博物館	ポスター発表(番号P-05)発表は太田	6月8～9日
山陰海岸ジオパーク西部(鳥取県)におけるエリア外専門家を招聘した海洋生物相調査と普及活動	太田悠造・幸塚久典・山名裕介・中野理枝・戸川優弥子・長谷川尚弘・西川輝昭	日本ジオパーク全国大会2019おおいだ大会	大分県豊後大野市地内 エイトピア小ホール	口頭発表(番号なし)発表は太田	11月4日
山陰海岸ジオパークでの遊びをここでしかできない体験に～GEO×アクティビティプロジェクト～	岩本有樹・郡山鈴夏・金山恭子・太田悠造・山下明男	日本ジオパーク全国大会2019おおいだ大会	大分県豊後大野市地内 エイトピア小ホール	口頭発表(番号なし)発表は金山	11月4日
山陰海岸ジオパークエリアにおける海洋生物相調査の経過報告	太田悠造・幸塚久典・山名裕介・中野理枝・戸川優弥子・長谷川尚弘・西川輝昭	令和元(2019)年鳥取県生物学会研究発表会・講演会	鳥取県立博物館	口頭発表(番号なし)発表は太田	12月7日
イボカギナマコ <i>Taeniogyrus japonicas</i> (Marenzeller, 1882)の再発見について	山名裕介・太田悠造・幸塚久典・Davin H. E. Setiamarga	第16回棘皮動物研究集会	三重県鳥羽水族館	口頭発表(番号なし)発表は山名	12月7日
海洋生物調査から見えてきた浦富海岸の知られざる海の生物たち	太田悠造	山陰海岸ジオパーク みんなでおしゃべり2	鳥取大学	口頭発表(番号なし)発表は太田	12月19日
駟馳山・立岩山のできかた	金山恭子・菅森義晃	山陰海岸ジオパーク みんなでおしゃべり2	鳥取大学	口頭発表	12月19日
山陰海岸ジオパークでの遊びをここでしかできない体験に～GEO×アクティビティプロジェクト～	金山恭子・山下明男	山陰海岸ジオパーク みんなでおしゃべり2	鳥取大学	口頭発表	12月19日

(3) 論文・報告

内 容 (タイトル)	著 者	形 式	掲 載 誌	巻 号 : ページ
鳥取県琴浦町勝田川に迷入したジンベエザメおよびその鰓から得られた共生生物の記録	一澤圭・太田悠造・田邊佳紀・鶴智之・渡邊克典・小笠原淳子・川崎美苗・小倉裕平	原著論文(査読付き)	鳥取県立博物館研究報告	56: 7-12
(内容: 微小甲殻類の形態記載と繁殖行動の観察) Description of female adult and praniza larva of	Yuzo Ota	原著論文(査読付き) 英文	Zootaxa (国際誌)	4711(3): 561-570

<i>Tenerognathia visus</i> Tanaka, 2005 (Crustacea; Isopoda; Gnathiidae) with notes on mating behavior				
(内容: エビに寄生するダンゴムシ状の甲殻類の生活史に関する発表) Habitat utilization and seasonal occurrence of <i>Tachaea chinensis</i> (Isopoda; Corallanidae) infesting freshwater shrimps in Lake Biwa, central Japan	Yuzo Ota	原著論文 (査読付き) 英文	Crustacean Research (国際誌)	48: 133-143

2.1 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館資料保有状況

(単位: 点)

区 分	前年度末 保有点数	本 年 度 増 加 点 数					本年度中 減少点数	本年度末 保有点数
		購 入	寄 贈	採 集	保管換	分類換		
地 学	83	1	0	6	0	0	0	90
海 洋 生 物	237	0	0	1	0	0	0	238
陸 上 生 物	153	0	0	0	0	0	0	153
そ の 他	26	0	0	0	0	0	0	26
合 計	499	1	0	8	0	0	1	507

\* 「その他」はデジタル地球儀など、地学と生物どちらにも分類できない資料や展示物、電子機器など

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等  
特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等  
特になし

